

受賞者紹介



母子未来賞

津曲 みゆき（田原学童保育どんぐりクラブ・北九州市小倉南区） 学童保育における合理的配慮を要する子どもへの対応 ～支援員間の共通理解を深める～

共働き家庭の増加に伴い、放課後も安全に過ごせる居場所を作ろうと始まったのが「学童保育」です。利用する児は100万人を超えるなか、発達障害を抱えた子どもたちも増えています。自分の意思をうまく伝えられない、感情のコントロールができない、つい暴力的になってしまう—といった子どもたちにどのように寄り添い、指導していくかが課題になっています。学童保育の支援員が、子どもたちの情報を共有、理解することに取り組みました。ミーティングノートや研修報告書の活用を図り、担当支援員だけがひとりで悩みを抱え込まないように、全支援員がサポートしていく体制を心がけました。その結果、全支援員が発達障害の子どもたちに積極的に関わり、声をかけるようになりました。子どもたちも心を開くようになり、ほかの子どもたちとも遊べるようになりました。

今後は、「学校との情報共有、協力体制づくり」に力を入れていくことにしています。

選考委員からのコメント

ともすれば後回しになりがちな課題に、積極的に取り組んでいることを高く評価した。このような取組みが他の地域にも広がっていくことを期待したい。



優秀賞

自主保育 おひさま遊ぼう会（糸島市） 太陽と土と水、そして緑で子どもを育てよう

共働き家庭の増加とともに、働く親への支援が求められています。しかし、ただ、「負担を減らす」ということに、あまりに力点を置き過ぎると、子育てから親を遠ざけることにもつながらないか、という懸念もあります。福岡県糸島地区で、親が互いに協力することで、のびのびとした保育に取り組んでいる「自主保育」のグループです。活動拠点は、糸島地区の神社、農園、海、山など。就学前（0～6才）の子どもたちが対象で、活動を支援してくれる協力者もまじえて、活動内容を決めています。「自主保育」「野外活動」「預け合い」「見守り」の4項目が活動のキーワードです。幼稚園や保育園と同じように、選択肢として「自主保育」が少しでも多くの人に認知されるようになって欲しいと願っている。

選考委員からのコメント

新しい試みであり、内容も充実している。親が主体となって、運営する会ということも評価した。

地域ぐるみの子育てを応援するひだまりの会（福岡市城南区）

屋外型ひろば「ちびっこプレーパーク in 堤」

乳幼児期の健全な成長発達にとって、外遊びは大切な要素の一つであるが、最近の午前中の公園には、乳幼児の親子の姿があまり見られない。そこで、プラザのそばにある公園を活用し、地域の中に乳幼児とその親が出ていける場、遊べる場、交流できる場として「ちびっこプレーパーク」を開催。乳幼児期からの外遊びをアピールし健全育成のためのノウハウを伝えている。現在は、城南区子育て支援課や堤公民館の子育てサロンとも連携し、城南区の堤公園で月2回（年24回）開催。砂遊びセットやなわとび、ボール、シャボン玉、夏はビニールプールを用意し、地域の乳幼児親子に外遊びの場を提供している。

今後は、堤だけでなく城南区の複数の校区の公園でプレーパークを開催し、少しでも孤独に子育てをしている親子の力になることが出来ればと考えている。

選考委員からのコメント

今までにない試みに驚かされた。地域や公民館との連携や交流が出来ている点も素晴らしい。

筑紫女学園大学 附属幼稚園（福岡市中央区）

目指せ、竹馬名人～最後まで、あきらめない！～

昔ながらの遊びが見直されています。体幹が鍛えられ、姿勢が良くなるといわれる、「竹馬」もその一つでしょう。竹馬遊びを、年長児の教育課程に取り入れて、健やかな子供の育成に取り組んでいます。既成の竹馬ではなく、保護者にも協力してもらい、竹馬作りから行っています。一人ひとりの子どもが自発的に、「自分の竹馬」で練習しています。レベルを5段階に設定し、所定の技ができれば、シールを貼ることができる「がんばり表」も作成しました。成果を発表する場として「竹馬披露会」も実施しており、全員が竹馬に乗れるようになりました。

選考委員からのコメント

モチベーションの持たせ方が工夫されている。一人の落伍者も出さなかったという点も驚かされた。

浜竹 裕美（心をゆさぶる共育の学舎・福岡市東区）

災害時に必要なことを宿泊キャンプで学ぶ

東日本大震災、熊本地震、猛烈な台風。日本列島では災害が相次ぎ犠牲者も出ています。私たちには災害に遭っても、生き抜くことができる「たくましさ」「創造力と想像力」が求められています。そこで防災学習キャンプ（1泊2日）に取り組みました。キャンプ前には、園児、保護者らを対象に救命救急講習を実施しました。救助措置方法を体験することで、防災、救命への理解を深めその知識を得ました。

当たり前のようにある「水」「火」のライフラインも災害時には確保できない事があります。そのような状況での食事作り、テントでの宿泊を体験しました。そして不便な環境では互いが協力し準備を怠らない事が重要であるという事を児童は学びました。

選考委員からのコメント

今の子どもに足りない体験をさせているユニークな取り組み。内容も大変充実している。